

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200230		
法人名	有限会社 おおぎもと		
事業所名	グループホーム JO・さざんか 第2		
所在地	豊田市大蔵町花立11-7		
自己評価作成日	平成27年 9月23日	評価結果市町村受理日	平成28年 2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2376200230-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年10月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活を「生活リハビリ」とした方針で、過ごして頂いています。洗濯物たため、ハンガー掛け、布縛り、布ほどこき、紙切り、などなど、なるべく、ほっとすることがないように、と心がけています。その方のできることを見つけて差し上げて、また、お手いをしてくださったときには、「ありがとうございました。助かりました」等と、お礼を言うようにしています。その方の笑顔が、私たちの笑顔、張り合いとしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『家族が安心して生活して行くために利用者を預かっている。』『家族が煩わしさを省いて自分たちの生活を楽しんでもらう』を基本に支援に取り組んでいる。その為、通院(山間部から市街地迄車で30分)をはじめ家族に負担になる事は極力ホームで支援している。
利用者だけでなく管理者・職員も地域出身者であり、自然体で地域との交流が成されている。地域のお祭りでホームに来た神輿に祝儀を出す利用者の姿、小学校の学芸会に招待されて出かけた際に、子供達が利用者の手を引く姿、保育園との交流等、真に心の通った交流が成されている。
近所からは白菜・ホウレン草等収穫された野菜が届けられる等、真に自然体で地域に溶け込んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「怒」の精神を基本とし…と、毎朝業務開始前に管理者と職員は、基本理念を唱和し、共有し業務に入っている。	管理者・職員は、毎朝引き継ぎの際、『怒(じょ)』の精神を基本に「基本方針」「介護方針」「コミュニケーションの第一歩」「私たちの職員倫理」等を唱和し、職員倫理の1項目を月次目標として実践に繋いでいる。	理念の周知は徹底されているので、理念をより身近にする為にも、理念を展開した『ホームの年度目標』を掲げ、具体的な実践に結びつけて行く事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主は地域の一員として、当地区に長年暮らしている。また、従業員の当地区の者が大部分なことから、浮いてしまうことなく利用者様も当地区の方も多いため、溶け込んで暮らしている。	利用者・管理者・職員全てが地域出身者であり、自然体で地域に溶け込んでいる。八百屋の移動販売・多くのボランティアの来訪、小・中学生の職場体験、散歩途中の挨拶、近所の方々よりの野菜のお届け等がある。	認知症ケアや関わり等について、地域に啓発する機会や相談を実施する等、地域に向けた情報発信を行い、認知症の地域拠点としての役割を担って行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時の挨拶や当地区の催しなどの参加の機会などから、地域の方に溶け込むように働きかけ、理解していただく様に支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議からの助言や意見を、それらを業務の中に活かすように努力している。会議内で、認知症やグループホームについての豆知識、社会情勢も研修内容に盛り込んでいる。	隔月に、隣接の『さざんか』と合同で開き、包括・区長・民生委員・病院関係者・特養・家族・ホーム職員等、幅広い参加者がある。自己紹介で食べたい物・行きたい処等も紹介し、場が和むように工夫している。	会議の参加メンバーにホームの主役の利用者が含まれていない。利用者の参加により参加メンバーのホームの理解がより深まり、会議がより充実する事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段、市とは必要以外のやり取りはないが介護相談員の受け入れを通じて、連携を図っている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の出席、介護相談員の受け入れ等があり、ホームの状況は行政に理解されている。管理者は社協の評議員も努め、行政との連携は図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の方の承諾を得ながら、安全上やむを得ず身体拘束をさせて頂くこともある。しかし、見守りを基本とし、極力、拘束をしない介護を心掛けている。	管理者・職員は身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアを実践している。玄関は開錠して利用者は自由に出入りしている。デイサービス利用者の状況により一時的に施錠する事、入居後、慣れるまで家族の同意の下で離床センサーを使用する事もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	耳にした場合は、言葉の虐待隊として本人に注意をしている。また、研修として共通認識で予防に心がけている。虐待に至るスタッフのストレスや疲労や日常の心身の状態に気を配らなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用することもある。社会資源を十分に利用者様に活かすことが出来るよう、常に学ばなければならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項の説明などを以って利用者様や家族の不安や疑問をお聞きし理解、納得をして頂くように努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や、普段の来所の際日常において意見を頂くことが出来るように、門戸を開いておく、という方針をとっている。	管理者は、家族の訪問時に直接意見を聴き、ホーム運営に反映させている。家族アンケート回答者全員が自由記述欄にコメントを寄せている事からも、家族との話し易い関係が構築されている事が分かる。	家族アンケートで厳しい評価を受けた『家族の困っている事』、『外出支援』の面で、ホームが支援している実態を家族に伝える工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、常駐している。また、気安さを以って何でも話すことが出来る雰囲気作りに気を配っている。意見や提案を聞く姿勢を見せ反映するようにしている。	家庭的な雰囲気のあるホームであり、職員が気兼ねなく意見・提案を言い易い環境にある。月1回のミーティングでは代表(管理者)が出席し、職員の提案や要望等、意見を出して話あっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常駐していることから、一人ひとりの介護の実際と力量を把握し、そのスタッフを熟知し指導に当たっている。介護の業務を通し学ぶ機会ととらえるように指導をしやりがいや工夫に繋げられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、常駐している。また、気安さを以って何でも話すことが出来る雰囲気作りに気を配っている。意見や提案を聞く姿勢を見せ反映するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は少なく、切磋琢磨の機会を多くほしいと思っている。市内など近距離での交流、研修が好ましいが。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	代表者は常駐していること、また、スタッフからの気づきや報告などから、スタッフと相談をしながら本人の安心や安どの気持ち作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来所の折などにお家の様子をさりげなく会話の中から把握するよう努めている。また、代表者の知り得ているノウハウをできる限り話すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用は、介護保険上無理ととらえているが、どうして暮らしていきたいかを感知していく努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年単位のお付き合いであり、なんでも言い合えるフレンドリー関係であると思っている。「親しき中にも礼儀あり」の諺を守り、礼節を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所の際、また、電話での連絡など、ご家族様と連携を取りながら、利用者様が安心して暮らしていくことが出来るよう努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブは外出の際に実家に寄ってみる、隣近所の方を見て話をするなど、お互いに共通の話題が持て、話ができるように、関係作りをしている。	利用者のサークル仲間、習い事仲間が来訪している。最初は会話が成り立たないが、少し喋っていると『あらー』と会話になってくる。来訪者も「何を話しているか解らないけど、元気でいる事解って良かった」と言われる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人が孤立してしまわぬように、寂しく無いように利用者同士話ができるように関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされ家庭に帰られた方も関心を持ち、近所の方に様子をお聞きしたり、本人に会い元気を喜び合ったりして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室はその方が暮らしやすいように使用して頂いている。本人の希望にできるだけ添うように努めている。	日常生活で、今日着る服は利用者が選びやすいようにしておく。何時でも世話が出る様に、居室で花を育てている等、利用者の意志を尊重し、介護し過ぎない様に努めている。	利用者に輝いていた時代を思い出させるインパクト(当時のアルバム・新聞・雑誌・ポスター・スターの写真等)を積極的に利用し、思いを引き出す誘い水になる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様は、この近界隈の方が多い。スタッフも地域の方が多いので、方言が飛び交いやすい間柄である。生活はスタッフと大差がないので共感できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり自由に過ごしていただくようにしている。毎日バイタルサインのチェックを行っている。その方のADLの合った生活を、と心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング時、細かいケアプランを共有し意見を出し合い、その方が元気に安心して暮らして頂くように努めている。	職員が家族・利用者の意向を聴き取り、職員ミーティングで話し合っケアプランに反映させている。介護記録には『サービス計画欄』を設け、利用者・家族の意向、課題、目標を表記し、職員全員が共有している。	介護記録の中の『思い』を個別計画に連動させ、『利用者・家族の望む暮らし』即ちその人らしさが感じられる計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録の様式に添って記録している。次の勤務者は、記録を読み、状態の把握に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の認知症の行動障害に合うように色々工夫をしたり、グッズを考えたりとスタッフ側の勉強にも繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア様、カラオケ、踊り、学校、保育園など多くの方の協力で毎日変化があり豊かな暮らしとなっているのではないかと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院、開業医など、その方のかかりつけ医を希望通りの受診のお手伝いをしている。	入居前のかかりつけ医に継続受診している。職員が受診同行し、気になる事があれば医師に伝え連携を図っている。遠方で通院困難な場合は、紹介状を頂き協力医に変更している。専門医は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐や准看護師のスタッフもいることから、健康状態を常時掌握し見極めをし、早めの受診、看護を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と相談しながら、その方やご家族様が大きく不安にならない様に関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と十分に話し合いを行い、事業所内でこれ以上できる事は無いかと事業所側も模索しながらその方が安全で安心して暮らして頂くように関わっている。	『グループホームに入ったからには、全て私達に任せて欲しい。家族には安心して自分の生活を取り戻して欲しい』との管理者の思いがある。家族や提携医と連携を取り、食事が経口摂取できる内はホームで対応する事を基本方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	労働時間の関係上、また非常勤者で勤務する事が多いので、なかなかスキルアップや周知が難しい。代表者(看護師)常駐から、その判断をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、防災訓練において避難訓練もしている。消防署からの指導も年1回継続して行っている。今年は地域の方やご家族様への非常時の協力要請を行う事が出来た。	毎月19日を『防災の日』と定め、火災・地震・夜間を想定した防災訓練を実施している。毎月くり返し実施し、利用者・職員も災害時に身体で覚えた動きが出来る様に習慣化させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字またはお名前をお呼びする事。ちゃん呼びはしない。などその方の尊厳や人格は重視している。	利用者を人生の先輩として、尊敬の意を忘れずに丁寧な言葉遣いで接している。トイレ誘導時の声かけ・トイレ介助・入浴介助等では羞恥心に、居室での介助時には扉を閉める等、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の承諾を得る、納得をして頂く、自分で決めて頂くように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望される時は、その方のペースに添う。しかし、ある程度の規則正しい日常生活は必要であると考え。その方が元気に安心して暮らして頂くことを基本に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪に際しては、その方の希望を聞いて行っている。また外出時や病院受診時は、身だしなみを気を付けている。高齢になってもお洒落心はある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の個性を尊重した食事を提供している。出来るだけ助けて頂いて片付け、準備などをしている。	利用者の好きな物を聞き、誕生日の献立に反映させている。赤飯・お寿司・鰻・おはぎ等の献立から、利用者の笑顔が想像できる。近隣の農家からの頂きものが多く、昼食は季節の野菜が多く使われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食の方、お粥の方、等その方に応じて色々調理方法を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方、歯磨きの方などその方に合致した方法で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に応じた方法で排泄ケアを行っている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、利用者個々に合わせた声かけ・誘導を行い、トイレで排泄が出来る様に支援している。トイレで排泄する習慣が出来、日中布パンツに改善出来た利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの材料、また野菜も多く使っている。排便の記録をつけながら、便秘、下痢など便状態の管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務の都合上、中々個人の希望を叶える事は難しい。また夜間入浴などできない。安全面での問題も生じるかもしれない。	夏は2日に1回、冬は3日に1回入浴機会がある。通院の前日は入浴している。冬は保温効果のある入浴剤、菖蒲湯、柚子湯等を楽しむ工夫がされている。入浴拒否の強い利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し、シーツや枕カバー洗い、など寝具の清潔を保ち、気持ちよく睡眠して頂くよう気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	きちんと処方された薬は服用して頂くように分包、分配し管理している。また処方された薬の効能書きを見るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	娯楽、散歩、ドライブ等入れながら、生活に変化を持たせるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望に添うように、できる限り関わっている。	日常の散歩は、弘法さんのお詣り・小学校等ホーム周辺に出かけている。気候の良い時期には季節の花(桃・桜・紅葉等)を求めてドライブに出かける事が利用者の楽しみになっている。	家族アンケートでは最も厳しい評価を受けた項目である。利用者の日常生活(特に外気浴を含めた外出)をより家族に理解して頂ける工夫を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる方、管理できない方は、ご家族様の管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時は促して書いたり、電話を掛けたり、その方に添った対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整然とされ、障害物がないように、と気を配っている。掃除も気を配っている。	昼食後、利用者がリビングに集まり洗濯物をたたんだり、テレビを見たりと思い思いに過ごしている。リビングのソファからは、食堂やキッチンに居る職員や玄関から入ってくる来訪者が見渡せ、興味深かそうに見ている利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用様の様子を見ながら、楽しく毎日を送って頂くように席替えをしている。納得の上で行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からのご自分で使っていた物を持っていらっしゃる。ベッドの位置、家具の配置など、その方が暮らしやすいように気を配っている。	テレビ・筆筒・縫いぐるみ・写真等、利用者は馴染みの物を居室に持ち込み、落ち着いて過ごせる空間を作っている。どの居室も窓が大きく、良く日が入り利用者の気持ちが安らぐ居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事をして頂き、出来る喜び、お礼を言っていただく喜び、張り合い、など生きているという喜びを思ってもらえるように関わっている。		